

**医学教育分野別評価 山形大学医学部医学科 年次報告書**  
**2024年度**

評価受審年度 2022（令和4）年

**今後改善が見込まれる項目**

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.1 使命</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
医学部の使命を整理して、大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者にわかりやすく示すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
医学部の使命は「人間性豊かな、考える医師の養成」という建学の精神に明記しており、建学の精神をもとに基本理念、医学部の目的を医学部の使命として規定、医学部医学科の教育目標と関連づけている。医学部ホームページ、学生便覧、山形大学医学部医学科ガイドに明示し、学生のほか学内学外の方へ周知している。	
<b>今後の計画</b>	
大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者にわかりやすく示すことができるように、教育プログラム評価委員会、教務委員会、カリキュラム検討委員会および新たに設置される医学教育プログラム策定委員会が連携し、医学部の使命を整理し検討を行い、医学部の使命を学生および教育者に適正に周知できる明示方法を検討していく。 また、令和6年度から再開される、県知事・県職員との意見交換会、ならびに県医師会との意見交換会において、医学部の使命やそれを達成するためのカリキュラムなどを説明する機会を設けていく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.3 学修成果</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
適切な行動について、学則・行動規範等に記載すべきである。 コンピテンシーを学生と教員に確実に周知し、理解を求めるべきである。	
<b>現在の状況</b>	
コミュニケーション能力に関する、より具体的な評価基準を教務委員会、厚生委員会にて検討していく。 コンピテンシーについては、シラバス作成時において、各科目必ず記載するように求めており、医学部専用掲示板 Moodle に掲載し、学生にも周知している。	
<b>今後の計画</b>	
プロフェッショナリズム／アンプロフェッショナリズムに関する指針を示す当該指針を検討し、学生便覧や臨床実習の手引き等に掲載する。また、各学年での授業等で取り上げる等、早期から時機を得て段階的に学生に指導・周知する。 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラムを踏まえたコンピテンシーの見直しを検討し、策定したものを医学部ホームページ上に公表する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料1 令和6年度医学科シラバス入力マニュアル	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.3 学修成果</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
卒業時の学修成果と卒後研修終了時の到達目標を関連づけて明示することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
卒業時の学修成果はディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとして明確にしており、卒後臨床研修終了時の学修成果は、卒後臨床研修の手引き等に明記している。 6年次学生を対象に、医師のキャリアパスを考えるセミナーを実施し、卒前の獲得目標と卒後臨床研修に必要とされる基本的知識・技能・態度の関連を考える機会を設けている。	
<b>今後の計画</b>	
卒前教育と卒後研修の一貫した教育体制の充実を目指し、教務委員会、卒後臨床研修センター教員会議と連携し、現状把握と問題点の洗い出しを行い、教育プログラムを検討していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.4 使命と成果策定への参画</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
使命と学修成果の策定にかかる委員会に、学生が正式な委員として参画すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
医学部の使命の策定に関して、広く意見を聴取する機会を設定するかどうかの検討を行う。	
<b>今後の計画</b>	
学修成果の策定にかかる委員会をどこに位置づけるかも含めて「学生の参画」に関する議論を深め、規則改正等に取り組む。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>1. 使命と教育成果</b>	<b>1.4 使命と成果策定への参画</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
使命と学修成果の策定に、広い範囲の教育関係者からより確実に意見を聴取することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
本学医学部は蔵王協議会と連携しており、本協議会の会員は、県内地域医療の代表者および医療関連行政組織等で構成されているため、意見聴取することは可能な状況である。	
<b>今後の計画</b>	
蔵王協議会にて医学部の使命、学修成果の策定等、教育に関する意見を聴取し継続的な体制づくりを検討する。 蔵王協議会を発展させ、多くの関係者から意見を聴取できるよう検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.1 教育プログラムの構成</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>6年間のカリキュラム全体を俯瞰し、全ての学修成果を修得できる教育プログラムを早急に構築し、確実に実施すべきである。</p> <p>学修意欲を刺激し、準備を促して、学生を支援するようなカリキュラムや教授方法/学修方法をより多く採用すべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>全学生が参加できる「課外研究室研修プログラム」を継続的に行っており、学生が探求心、医学へのモチベーションを高めることに繋がるよう実施している。</p> <p>また、学習支援システム Moodle を活用し、講義資料を原則授業2日前までにアップロードし学生の事前学習等に取り組みよう活用している。一方、学生から使いにくい箇所もある旨の要望もあることから、学生との意見交換を行いながら機能をアップデートし拡充していくことが課題である。</p> <p>カリキュラム全体を見直し、新しいプログラムを構築する「医学教育プログラム策定委員会」を令和6年4月に新たに設置する。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>学習支援システム Moodle において、コンテンツをアップロードしやすい環境を構築するとともに、学生意欲を高められるようなシステムの構築と e-learning コンテンツの拡充を図る。</p> <p>医学教育プログラム策定委員会が中心となり、カリキュラムの改訂の検討を行う。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>2.教育プログラム</b>	<b>2.1 教育プログラムの構成</b>
<b>質的向上のための水準：</b> 適合	
<b>改善のための示唆</b>	
自己主導型学習の意識を高めるためのプログラムの拡充が望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
自己主導型学習の意識を高めるために、生涯学習への姿勢を目標に掲げるカリキュラムが編成されている。1年次「学部導入セミナー」「早期医学・医療体験学習」、3年次「研究室研修」、全学年対象「課外研究室研修プログラム」を受講することにより、生涯学習に関連するカリキュラムを通じて学生の自己主導型学習の意識を高めるよう指導している。	
<b>今後の計画</b>	
「研究室研修」から「課外研究室研修プログラム」への執行状況や、その後のキャリア形成、生涯学習への取り組みに与える影響の評価を行うことを検討するとともに、現行のカリキュラムの見直しを図る。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>2.教育プログラム</b>	<b>2.2 科学的方法</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
EBM に関する諸講義および臨床実習に共通する標準的教育方法が整理されておらず、今後さらに整備すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
EBM (科学的根拠に基づく医学) に関する主なカリキュラムは、年次進行に応じた積み上げ、発展形式のカリキュラム編成としているが、EBM に関する講義、臨床実習に共通する標準的教育方法は整理されていない状況である。	
<b>今後の計画</b>	
EBM (科学的根拠に基づく医学) に基づく臨床実習は行われている一方、講義について行われているかどうかの確認を行うこととし、講義スケジュールや教育方法について、新たに設置する医学教育プログラム策定委員会にて検討し、EBM の体系的な教育カリキュラムの策定を目指す。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
臨床医学を修得し応用するために必要となる科学的知見や概念、手法について、担当するカリキュラム検討委員会で議論したうえで、より多くカリキュラムに盛り込むべきである。	
<b>現在の状況</b>	
3年次開講「臓器疾患学」4年次開講「全身性疾患学」においては、基礎医学系講座の教員も関与し、臨床医学修得における基本的概念理解が図られている。 また、2年次解剖学ⅠおよびⅡの終了後に「局所解剖・画像診断特論」を開講し臨床現場での画像診断における局所解剖の重要性や意義を理解させている。	
<b>今後の計画</b>	
臨床医学を修得し応用するために必要となる科学的知見や概念、手法について、より多くのカリキュラムに盛り込まれるよう、カリキュラム検討委員会及び新たに設置する医学教育プログラム策定委員会で検討していく。 また、2年次開講「局所解剖・画像診断特論」について、垂直統合教育のあり方を検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.3 基礎医学</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
将来に向けて必要になると予想される基礎医学について教育内容を検討することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
正課「研究室研究」課外「研究室研修プログラム」を実施し、学生に最新の医学に触れる体制を整備している。	
<b>今後の計画</b>	
正課・課外の研究室研修プログラムの評価、有効性について、各講座の意見を取り入れながら、よりよい体制を整備できるよう検討する。 令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムを視野に入れ、AI教育やデータサイエンス等のデジタル技術を活用した医学・医療技術の分野をカリキュラムに取り入れることも検討していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
6年間のカリキュラム全体を通じて、行動科学、医療倫理学について体系的に学ぶ機会を設け、実践すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
現在、行動科学は、複数講座が担当する臨床医学系講義、実習で扱われており、単独での講義としては扱われていない。行動科学を独立した単位として扱うことが可能かどうかを含め、今後カリキュラム検討委員会等で検討することになる。	
<b>今後の計画</b>	
カリキュラム検討委員会において、今後の懸案として問題提起している1年次「学部導入セミナー」等に行動科学に関する授業内容を令和6年度から盛り込むこととする。	
医学教育プログラム策定委員会を中心に、令和6年度中にシラバスの内容を見直し、行動科学教育パッケージカリキュラムを整備できるよう検討する。	
行動科学と同様、医療倫理も窓口となる担当者を決め、パッケージカリキュラムを整備できるか検討していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料2 2024シラバス (学部導入セミナー)	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>2. 教育プログラム</b>	<b>2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
将来に向けて必要になると予測される行動科学、社会医学、医療倫理学の教育内容を検討し、カリキュラムを調整および修正することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
教務委員会、カリキュラム検討委員会を中心に、カリキュラム検証・改善を継続的に検討する。	
<b>今後の計画</b>	
医学教育プログラム策定委員会、教務委員会、カリキュラム検討委員会を中心に、カリキュラム検証・改善を継続的に検討し、医療政策学講座を中心に、授業の見直しや改善事項等について、適宜対応を依頼する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>診療参加型の臨床実習期間を十分に確保すべきである。</p> <p>クリニカルクラークシップの内容を吟味し、医療チームの一員としての態度・技能・コミュニケーション能力が涵養されるようなプログラムを構築すべきである。</p> <p>学生が経験すべき疾患、医行為を定め、実施状況を把握し、臨床実習プログラムを見直すべきである。</p> <p>健康増進、予防医学に関する体験を確実に実践すべきである。</p> <p>全ての学生が、重要な診療科で十分な実習を行う機会を確保すべきである。</p> <p>医療安全および感染症対策に関する講習会に学生も参加するなど、患者安全に配慮した臨床実習を構築すべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムに対応するために、教務委員会、カリキュラム検討委員会において継続的に検討を行っている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>診療参加型の臨床実習期間について、医学教育プログラム策定委員会やカリキュラム検討委員会において、今後の懸案として検討している。改訂コアカリや医学教育分野別評価の評価基準に準拠した体制整備を模索中である。</p> <p>クリニカルクラークシップの内容については、クリニカルクラークシップにおける必修事項を確認し、学生等を含めて講座、診療科等から広くアイデアを募集して具体を検討していく。各受入先で取り組んでいるグッドプラクティスを集約して情報共有を図る予定である。</p> <p>「医行為の記録」により、経験した症例に関するデータ集計・分析方法を検討する。「CC-EPOC」の導入を検討し、広域連携臨床実習関連病院でも利用可能か検討する。</p> <p>健康増進、予防医学について、1年次に「禁煙教育」を実施しており、それを継続する他、保健所や健康診断センター等の体験（訪問）授業の実施を検討する。</p> <p>病院の医療安全や感染症対策に関する講習会について、学生に e-learning により受講させる。医療安全に関しては医学教育学講座、感染症対策に関しては検査部を中心にカリキュラムの見直しに関する検討を依頼する。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料7 令和5年度医学部カリキュラム検討委員会議事（令和6年2月14日開催）</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

2.教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<p>2年次および3年次でも患者との接触機会を設け、6年間にわたって患者と接触する機会を持つことが望まれる。</p> <p>シミュレーターをさらに活用し、学生が段階的に臨床技能を修得できるプログラムを構築することが望まれる。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、中止を余儀なくされていたが、令和5年度より1年次開講「早期医学・医療体験学習」では救急車搭乗実習を再開、4年次開講「総合医学演習：地域医療学」では、地域病院見学実習を再開実施できることとなった。</p> <p>シミュレーターについては、OSCE実施に合わせて活用しているが、基本的臨床技能の習得度合を評価するために、カリキュラムを見直して「基本診療学（基本診療技能学）」の実施計画を再検討する。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>令和5年度より1年次開講「早期医学・医療体験学習」では救急車搭乗実習を再開、4年次開講「総合医学演習：地域医療学」地域病院見学実習を再開できることとなったため、継続的に実施していく。</p> <p>「基本診療学（基本診療技能学）」の授業において、シミュレーションを使用し、臨床技能を修得する授業内容を検討する。</p> <p>2年次および3年次において、患者と接触する機会を設けられるか、カリキュラムを検討していく。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>2.教育プログラム</b>	<b>2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
基礎医学、行動科学、社会医学および臨床医学の適切な関連と配分、実施順次性などを検討し、教育プログラムをさらに改善すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
1年次に開講の学部導入セミナーにおいて、行動科学の内容を盛り込むため再編を行った。令和6年度から学部導入セミナーにて、行動科学を盛り込むこととなった。	
<b>今後の計画</b>	
1年次のみならず、複数学年にわたり行動科学を導入するために、医学教育プログラム策定委員会、教務委員会、カリキュラム検討委員会にて検討し、カリキュラム編成を行う。令和4年度改訂医学教育モデル・コア・カリキュラムに即したカリキュラムの編成を目指し、基礎医学、社会医学および臨床医学も含め継続的な改善を目指す。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料2 2024シラバス (学部導入セミナー)	

## 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
全ての教育課程で、関連する科学・学問領域および課題の水平的統合、垂直的統合を、より一層充実、拡充させることが期待される。	
<b>現在の状況</b>	
臨床医学教育に関する科目では、ほとんどの科目において水平的統合を満たしており、効果的な学習が可能になっている。また、「局所解剖・画像診断特論」「臓器疾患学」「社会医学・医療学」「総合医学演習」においては、垂直統合を目指し検討していくことになる。	
<b>今後の計画</b>	
「臓器疾患学」と「全身性疾患学」等の科目間での講義内容の重複が見られることが指摘されており、新設する医学教育プログラム策定委員会にて検討を行い、また、医学科学生と教務委員会との意見交換会を通じて学生の意見・要望を伺いながら、カリキュラム内容を精査し、更なる改善を目指していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

2.教育プログラム	2.7 教育プログラム管理
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>学修成果が達成されることを指標として、教育プログラムを立案、実施する仕組みを構築すべきである。</p> <p>カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会を明確にし、それぞれの委員会の役割分担を明確にすべきである。</p> <p>学生の代表を、カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会の正式メンバーとすべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>教務委員会、カリキュラム検討委員会および教育プログラム評価委員会において、教育における PDCA サイクルを回しているが、各委員会が担う役割分担が不明確な箇所があること、また、カリキュラムや教育プログラムの策定にかかる委員会がないことの指摘を受け、各委員会の果たす役割と、教育プログラム策定に係る新たな委員会を設置することを検討している。</p> <p>カリキュラム検討委員会では、各学年から1名代表学生を委員として参画している。また、学生と教務委員会との意見交換会を月2回開催（低学年高学年）し、学年代表者と教務委員が意見交換を行っている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>教育プログラム評価委員会の提言の実質化を図り、教育プログラム策定（カリキュラム改革）に係る新たな委員会（医学教育プログラム策定委員会）を設置する。</p> <p>医学教育プログラム策定委員会は、教務委員会、カリキュラム検討委員会とは独立した委員会とし、プログラム策定に特化した委員会とする。</p> <p>学生がカリキュラム策定に十分関与・参画できる定期的な意見交換の場を設定し、学生・教員双方の満足度を高める。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料11 教育プログラム策定委員会の設置について（案）	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>2.教育プログラム</b>	<b>2.7 プログラム管理</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
広い範囲の関係者から教育カリキュラムに関する実質的な意見を聴取する体制を構築することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
カリキュラム検討委員会の構成員として、教員の他にメディカルスタッフ（看護部・薬剤部）、学生がメンバーとして参加しており、現場や学生の意見を聴取できる体制を整えている。	
<b>今後の計画</b>	
メディカルスタッフや学外関係者からの意見や情報を取り入れ、カリキュラム作成に反映されるように、意見交換の場を設ける等の体制を構築できるよう、定期的に改善していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
<b>質的向上のための水準</b> 判定：部分的適合	
<b>改善のための示唆</b>	
<p>山形県からの寄附講座「地域医療を担う医師等のキャリア形成推進講座」、「広域連携臨床実習運営会議」などを通して、教育プログラムに関して意見聴取するシステムを確立し、カリキュラム改良を確実に行うことが望まれる。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>寄附講座「地域医療を担う医師等のキャリア形成推進講座」では、一部の診療科において、広域連携臨床実習の協力病院から総合診療医師を非常勤講師としてお招きし、本学部の臨床実習（BSL）での Small Group Teaching として、実践的な学生実習を実施している。</p> <p>広域連携臨床実習運営会議においては、毎年開催しているが、講義事項として教育プログラムに関する意見聴取の機会が確実に盛り込まれているとは言えない。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>広域連携臨床実習運営会議においては、教育プログラムに関して意見聴取する機会を設ける等の会議内容を検討していく。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>医師になる者としての適切な態度、行動について、低学年から継続的に評価するシステムを構築すべきである。</p> <p>臨床実習において、mini-CEX や 360 度評価などを用いて、技能と態度の評価を確実に実施すべきである。</p> <p>評価方法および結果に利益相反に関する規定を定めるべきである。</p> <p>評価が外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>プロフェッショナリズム／アンプロフェッショナリズムに関する制度の導入については、統一した指標をできるか検討する。</p> <p>mini-CEX や 360 度評価を用いるべく、学内および広域病院の臨床指導に当たる教員向けに FD 講演会を実施している。</p> <p>評価方法および結果に対する利益相反を想定した諸規則は定めておらず、当該利益相反の事案は発生していない。</p> <p>試験問題および解答を学生に公表し、識別指数を用いた採点結果の検証作業を行っている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>プロフェッショナリズム／アンプロフェッショナリズムに関する指針を示す。当該指針を学生便覧や臨床実習の手引き等に掲載する。また、授業等で取り上げる等、早期から時機を得て段階的に学生に指導・周知する。</p> <p>臨床実習の評価に関する FD 講演会の数年の実績を踏まえて対応する。改訂コアカリでの例示を参照して mini-CEX 等を導入する。</p> <p>関与する教員に対する利益相反に関するルールの策定を検討する。</p> <p>「外部の専門家」とは学内外を問わないため、結果の妥当性を吟味する観点から、試験問題及び解答（模範解答や採点基準等）の学生への公表や識別指数を用いた採点結果の検証作業を継続させる。また、到達目標（コンピテンシー）の達成状況の最終評価に位置づけられる卒業判定の過程を明確にして明示するよう努める。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料3 令和5年度FD講演会実施要項	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.1 評価方法</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
各科目の評価について信頼性と妥当性を検討することが望まれる。 外部評価者の活用を進めることが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
各科目の評価については、試験問題および解答を学生に公表している。また、5年次試験や卒業試験においては、採点結果に対する学生からの疑義照会を受け付けており、信頼性と妥当性に努めている。 成績評価への外部評価者の活用は、CBT 試験、Pre-CC OSCE、Post-CC OSCE の共用試験において、学外の外部評価者を受け入れて実施しているが、学内の進級卒業判定にかかることについては、学内の会議に外部評価者がかかわる余地がなく、あり方を検討することが必要である。	
<b>今後の計画</b>	
成績評価の信頼性と妥当性を適切に評価する方法を模索するとともに、その根拠となるデータの蓄積と分析を継続していく。 成績評価に外部評価者を活用することについて、問題点を洗い出しながら仕組みづくりができるかどうかの議論を重ねて、外部評価者の活用方法を検討していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料4 医学科の試験問題及び正答の取り扱いについて 資料5 試験の疑義照会様式	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>3. 学生の評価</b>	<b>3.2 評価と学習との関連</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
目標とする学修成果の達成度に基づく評価を実践すべきである。 目標とする学修成果に整合した評価方法を用いて、学生が達成していることを段階的に保証すべきである。 形成的評価を確実にを行い、学生の学修をより促進すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
評価方法については、授業および実習を担当する各講座が、各科目の開講方式の裁量があり、形成的評価の導入・実施も各講座の委ねている部分が多い。各講座の取り組み状況を確認しながら、有効な方策について見直しを進める。	
<b>今後の計画</b>	
コンピテンシーを意識した評価指標に基づく形成的評価を確実に実施する。 講義および演習の途中で形成的評価を行う機会を設けることを前提として、制度の見直しを進める。 学生一人一人にとって学修成果の達成度が異なることを前提として、つまずきのある学生を普段の関わりや定期試験の成績等を駆使して早期に洗い出すことができる学生支援の在り方を検討する。 形成的評価と全てのカリキュラム単位で、その科目の特性を考慮した上で、有効な形成的評価と総括的評価のバランスを検討していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
全ての学生に対して、学修成果の評価結果に基づいた具体的、建設的、段階的なフィードバックを行うことが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
<p>アドバイザー教員およびメンター制度について、メンターが付いている学生に対してはメンター教員が定期的に状況を確認の上、学生にフィードバックしている。</p> <p>教務委員会において、試験問題および解答・採点基準等を学生が閲覧できるようにするための整備を行った。学生が解いた試験の採点基準などを確認できるようにし、成績評価の妥当性を透明化することを目的に、試験問題および解答を学生に公表している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
アドバイザー教員およびメンター制度を充実させ、個々の学生にどのようなタイミングで、どのような対応を行うことが適切であるのか、より具体的に、かつ、成長が確認できるフィードバックを行う方法を検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
<p>資料4 医学科の試験問題及び正答の取り扱いについて</p> <p>資料5 試験の疑義照会様式</p>	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>4. 学生</b>	<b>4.1 入学方針と入学選抜</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
選抜と医学部の使命、教育プログラムならびに卒業時に期待される能力との関連を述べることが望まれる。 アドミッション・ポリシーを定期的に見直すことが望まれる。 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
アドミッション・ポリシーに基づいて地域に貢献する医師として巣立ってもらえるような入学志願者を受け入れるために、分析・検討・改革を行っている。入学試験検討委員会と IR 委員会が連携して、入学後の成績や留年率、医師国家試験の合格率を調査しながら、選抜試験が適切であるか随時評価している。 アドミッション・ポリシーの見直しは社会的要請に沿った入学選抜方法の見直しの際に対応が必要になる。 入学許可決定への疑義対応手順は定められており、大学事務局で対応を行っている。	
<b>今後の計画</b>	
入学後の成績評価について、入学試験検討委員会と IR 委員会で調査・分析を行っていく。 「地域枠」の入学・卒業生の追跡調査とともに、社会の要請を踏まえて制度の在り方を検討し県内定着率等も検証しながら制度の見直しを検討していく。 今後、疑義に申し立てがあった場合は手順に沿った対応を行っていく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
学生のカウンセリング制度を充実させ、よりきめ細かく運用すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
<p>本学全体での総合的な学生修学支援・カウンセリングのシステムは、各機関の協力を得ることで、医学部にも整備されており、学生に対してきめ細やかなに対応するよう心掛けている。アドバイザー教員メンター制度を充実させ、学生相談室（カウンセラー）等との連携を図り手厚いサポート体制を整えており、全学年を対象にフォローアップする体制を構築している。</p> <p>また、学生相談件数が増加傾向にあるが、医学部内の専任対応スタッフ数が不足している状況である。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>学生相談室（カウンセラー）とこころの相談室（精神科医、救急部等）の連携による支援対策の強化を図る。</p> <p>令和6年度より常勤の臨床心理士といった専門スタッフを安定的に配置できる体制を整え、学生相談室の開設時間の延長・増加を検討していく。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料6 飯田キャンパスこころの相談室フローチャート	

## 今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
キャリアガイダンスを含めたカウンセリングをより充実することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
<p>3年次と5年次を対象に、全員参加のキャリアパスセミナーを開催しており、キャリアガイダンス、キャリアプランニングに関する情報提供を行っている。講演会並びに卒業生（卒後臨床研修医）、教員との懇談の場で、先輩医師の経験や進路プランを見聞きすることができ、考えさせる機会を設けている。</p> <p>また、カウンセリングでは、教員と学生による直接面談により、学生への将来（キャリアプランニング）を考える機会を設けている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>個々の面談指導、キャリアパスセミナーを継続して実施するとともに、現行の取組みの検証を行い、教職員のカウンセリング能力の向上を目的とするFD講演会等を検討する。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.4 学生の参加
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
使命の策定、教育プログラムの管理、教育プログラムの評価、学生に関する諸事項を審議する委員会に学生の代表が参加し、適切に議論に加わるべきである。	
<b>現在の状況</b>	
<p>カリキュラム検討委員会においては、学生委員から現行カリキュラムに対する意見・要望を聴取し、本委員会にて検討・議論を行った。</p> <p>学生と教務委員会との意見交換会を月2回開催（低学年高学年向け）し、学年代表者と教務委員が意見交換を行っており、その意見交換の内容は、定期的に教務委員会、各学年の学生に共有している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>諸事項を審議する委員会をどこに位置づけるかも含めて「学生の参画」に関する議論を深め、規則改正等に取り組む。教務委員会への「学生の参画」に関し、議題に応じた出席制限を設けるようにする等工夫する。</p> <p>医学科学生と教務委員会委員の意見交換会は、今年度は参加する教員数を増やして学生から寄せられる意見に迅速に多面的・総合的に的確に回答できるよう対応している。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料7 令和5年度医学部カリキュラム検討委員会（令和6年2月14日開催）議事	
資料8 カリキュラムに関する学生からの要望一覧	

## 今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
教育、研究、診療の役割のバランスを含めた教員の活動を、より詳細にモニタする方針を策定し履行すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
医師の働き方改革への対応も迫られる中、教育・研究・診療活動の責務を担う教員医師の仕事の量に見合った人員配置が必要であるとともに、担当領域の適正に伴う教員の偏在という課題もある中で、戦略的な計画に基づいた教員の再配置を検討が必要である。 現行の採用・選考基準に基づいた教員の採用活動及び人事考課を適切に行っていく。	
<b>今後の計画</b>	
「教育」の実績に関する事項や定量化して評価することの難しい「診療の質」に関する事項について、教員の任用や昇進の評価指標として望ましい在り方に向けた議論を進めて、客観的評価を行うよう検討する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>教育、研究、診療の職務間のバランスを含め、教員の活動をより詳細にモニタし認識すべきである。</p> <p>教員がカリキュラム全体を十分に理解できるよう、研修、能力開発、および支援を実施すべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>コミュニケーションインフラによる勤怠管理システムを導入して診察・研究・教育業務と自己研鑽を仕分けする等、医師の働き方改革にも対応して教員医師の負担軽減を図る。</p> <p>昨年度末に改訂コアカリ対応（作業）説明会を教員に対して実施した。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>教務系ではなく総務系（人事・労務関係）の対応事項となるが、テニユア付与実績や教員の活動業績評価制度の運用実績、Dr. JOY の稼働実績等を適切に評価する。</p> <p>例年、FD 講演会を開催しているが、実施回数を増やし、講演テーマの設定や講師の選定を工夫し、受講者の教員が学んだことを教育現場に還元しやすいよう、企画立案を検討していく。</p> <p>CBT 問題作成ワークショップや医学教育ワークショップを確実に実施し、e-learning も活用しFD 開催回数を増やしていく。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.1 施設・設備</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
医療安全および感染症対策に関する講習会に学生も参加するなど、より安全な学修環境を確保すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
5年次開講「演習型講義」、4年次開講「総合医学演習（医学・医療言論）」において、医療安全に関する講義を実施している。	
<b>今後の計画</b>	
感染症対策に関する講義を演習型講義内で取扱いできるかどうか検討する。	
<b>改善状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.1 施設・設備</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
学修環境にかかる施設・設備の改善を確実に進めることが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
YU-MAI センターの施設・設備整備計画が着実に実現するよう計画している。	
<b>今後の計画</b>	
YU-MAI センター設立により、各種シミュレーターや診察ルームを利用し、臨床実習における多様な学習環境を整備できるように検討する。また、YU-MAI センター設立により、OSCE 実施の効率化だけでなく、臓器疾患学、全身性疾患学および臨床実習のプログラムにおいても使用する予定である。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料9 YU-MAIセンター整備概要	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.2 臨床実習の資源</b>
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
学生が適切な臨床経験を積めるように、学生が経験する患者数と疾患分類をモニタし施設ごとに把握して、臨床実習施設を整備すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
YU-MAI センター内に新たな臨床実習施設を整備予定である。	
<b>今後の計画</b>	
「医行為の記録」の経験した症例に関するデータ集計・分析方法を検討する。 CC-EPOC の導入を検討し、広域連携臨床実習関連病院でも利用可能にする。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料9 YU-MAIセンター整備概要	

### 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.2 臨床実習の資源</b>
<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
患者や地域住民の要請をふまえ、臨床実習施設の整備をさらに進めることが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
YU-MAI センターの施設・設備整備計画が着実に実現するよう計画している。	
<b>今後の計画</b>	
地域医療に関する実習機会の提供に努めていく。 YU-MAI センターを活用した患者や地域住民の要請に応える教育システムの構築を検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料9 YU-MAIセンター整備概要	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>6. 教育資源</b>	<b>6.3 情報通信技術</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
Moodle、WebClass などの ICT をより有効に利活用する方針を作成して履行すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
本学部にて、ICT を活用した遠隔授業を検討するにあたり、他大学への視察を行い情報収集に努め、医学教育改定を作成した。	
<b>今後の計画</b>	
Moodle の更新を実施し、使いやすいシステムの構築・機能の拡充を検討するとともに、e-learning コンテンツの拡充を図る。 講義録画システムを導入し、オンデマンド講義の実施環境を構築する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料 10 令和 6 年度山形大学医学部医学科医学教育改定	

## 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.5 教育専門家
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
カリキュラム開発や教育技法・評価方法の開発について、教育専門家の育成と活用をさらに推進すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
<p>卒後臨床研修のための指導者講習会にも医学教育の基礎的な内容が含まれていることから、当該講習会に参加する教員を増やして専門家教育の一環とすると同時に、その成果をカリキュラム開発に役立てる。</p> <p>卒後臨床研修のための指導医講習会や共用試験実施評価に係る認定講習会の受講者を増やして専門家教育の一環とすると同時に、その成果を学生指導に役立てる。</p>	
<b>今後の計画</b>	
医学教育学講座を中心に最新の医学教育動向をキャッチし、医学教育の専門家（客員教授）の活用を促進しながら、医学教育の課題改善に取り組んでいく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.5 教育専門家
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
<b>改善のための示唆</b>	
<p>教員の教育能力向上において学内外の教育専門家の活用をさらに推進することが望まれる。</p> <p>教職員が教育に関する研究をより一層遂行することが望まれる。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>FD 講演会の開催形式を対面、オンライン、オンデマンドに拡大し、より多くの受講者が参加できるように計画し実施している。</p> <p>IR 分析に基づく研究や寄附講座による課題解決のための研究が展開されている一方、医学教育に携わる臨床系教員の多くが附属病院での診療に携わっており、教育的な研究を行うための時間的余裕が不十分であること等が課題である。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>FD 講演会は学外の教育専門家を講師に招いており、広域連携臨床実習関連病院の指導医に対しても広く周知し、これまで以上の参加者の拡大を図る。</p> <p>教育部門の教員配置や設備等の拡充に努めて、教職員が教育研究を行うための支援体制の充実を図っていく。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>学修成果の到達度を定期的にモニタするシステムを構築すべきである。</p> <p>教育プログラムを評価する委員会（教育プログラム評価委員会、教務委員会、医学部 IR 委員会）の役割分担を明確にすべきである。</p> <p>モニタ結果をもとに、特定された課題を検討し、カリキュラム改善に確実に反映させるべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>教務委員会、カリキュラム検討委員会からの報告に基づき、教育プログラム策定委員会がこれらの活動をモニタリングしている。改善のための助言に基づき、現行の各種委員会での役割分担の不明確である、カリキュラムや教育プログラムの策定する委員会がないといった指摘を受けて、教学に関する委員会のそれぞれの役割を明確にし、教学のP D C Aサイクルを確実にまわすための仕組みづくりを検討し、新たな委員会を設置する。</p> <p>全学組織においては、教育推進機構運営会議が組織され、カリキュラム・チェックリストの検証・認定作業を通じた教育プログラムの評価が行われている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>教育プログラム評価委員会のさらなる実質化を図り、カリキュラム検討委員会などの委員会からの報告に基づき定期的に教育プログラムを評価するシステムを構築する。教育プログラム評価委員会、教務委員会、カリキュラム検討委員会、及び新たに設置する医学教育プログラム策定委員会（仮称）の位置づけの明確化を図る。教育プログラム評価委員会の通知に基づき、新たに設置する医学教育プログラム策定委員会（仮称）において、教育プログラムの改善のための検討を行う。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料 1 1 教育プログラム策定委員会の設置について	

## 今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
教育プログラム評価委員会、医学部 IR 委員会の活動を実質化し、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
<p>日本医学教育評価機構からの指摘事項をふまえ、教育プログラム評価委員会を開催し、問題点を抜粋し課題改善に向けた具体的な検討を教務委員会等関係する委員会に依頼・通知した。</p> <p>教育プログラムの全体的な成果を把握するために、CBT、卒業試験、特別試験、医師国家試験外部模擬試験のデータを活用し、学生の進歩に関する評価を継続的に行っている。それらのデータを総合して卒業判定を実施している。</p> <p>カリキュラム内容と学内試験、共用試験および医師国家試験の各成績等を包括的に検討し、適切な教育プログラムが実施されているか評価を行っていく。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>教育プログラム評価委員会のさらなる実質化を図り、カリキュラム検討委員会などの委員会からの報告に基づき、定期的に教育プログラムを評価するシステムを構築する。教育プログラム評価委員会、教務委員会、カリキュラム検討委員会、及び新たに設置する医学教育プログラム策定委員会（仮称）の位置づけおよびそれぞれの役割の明確化を図っていく。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料 1 2 教育プログラム評価委員会議事（令和 6 年 2 月 2 7 日開催）	

## 今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>教員および学生から教育プログラムに関するフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>カリキュラム検討委員会において、学生に対する令和7年度のカリキュラムについての意見を募った。</p> <p>医学科学生と教務委員会委員との意見交換会において、学生から意見聴取し教務委員会にて報告、学生へのフィードバックを行っている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>カリキュラム検討委員会等において、教員および学生からの意見を定期的に集約していることを踏まえ、その内容を分析して改善策を具体的に示して対応していく。</p> <p>カリキュラム検討委員会や医学科学生と意見交換会の意見交換会での意見聴取に加え、学生に授業評価等のアンケート調査の実施を検討する。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>7.教育プログラム評価</b>	<b>7.2 教員と学生からのフィードバック</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
教育プログラム評価委員会を実働させ、教育プログラムに関するフィードバックを系統的に求め、分析し、教育プログラム開発に利用することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
教育プログラム評価委員会においては、2巡目評価の判定結果を踏まえた改善のための方向性を検討し、教務委員会およびカリキュラム検討委員会へ教学における課題改善に向けた具体的な検討を依頼・通知した。	
<b>今後の計画</b>	
今後も教育プログラム評価委員会をカリキュラム検討委員会や教務委員会からのフィードバック情報に基づいて定期的で開催してゆく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
学修成果とカリキュラムに関して、学生と卒業生の実績を系統的、継続的に分析すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
卒業生の進路に関する情報は、医学科同窓会である「蔵王会」及び卒後臨床研修センターにて情報収集し概ね把握している。県内で医師として従事する場合は追跡調査等がある程度可能であるが、県外で医師として従事している卒業生の評価が不十分であるため、同窓会を通じた情報収集の対応検討が必要である。	
<b>今後の計画</b>	
医学科同窓会である「蔵王会」の活動を継続実施させる。または、適宜見直しを行っていく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

7.教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
<p>教育プログラム評価委員会、医学部 IR 委員会が主体となり、学生と卒業生の実績を系統的、継続的に分析し、その分析結果を責任ある委員会へフィードバックすることが望まれる。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>医学部 IR 委員会が主体となり、学生の出席率、留年率、試験成績、国家試験の合否、卒業後の進路等データの蓄積状況から、入学者選抜方法やカリキュラム、教育内容を進めるための分析を行い、学生と卒業生の業績を系統的・継続的に分析することが可能である。一方、卒業生の進路に関する情報は、卒後臨床研修センター及び蔵王会が概ね把握しており、県内に従事している卒業生の調査はある程度可能であるが、県外の卒業生については情報収集の対応検討が必要である。</p> <p>分析した結果は、教務委員会、カリキュラム検討委員会、入試検討委員会及び教育プログラム評価委員会にフィードバックし検証していく。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>医学部 IR 委員会での学生と卒業生の業績を系統的・継続的に分析していく。</p> <p>学生データの収集を継続するとともに、同窓会を通じてデータ収集に努め、卒業後の長期的な進路・成果の評価が十分にできる対策を講じていく。</p> <p>教務委員会、カリキュラム検討委員会、入試検討委員会及び教育プログラム評価委員会、医学部 IR 委員会による学生の実績分析を継続しカリキュラム立案にフィードバックしていく。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
教育プログラム評価委員会に、学生など教育に関わる主要な構成者が参加すべきである。	
<b>現在の状況</b>	
教育プログラム評価委員会に、医学部長、教務委員会委員長経験者を構成員として加わっており、教育プログラムのモニタリング、評価を検討している。 プログラム評価の部分はカリキュラム検討委員会が一部対応しており、本委員会に学生が参画し、学生の意見等を取り入れられる対応を行っている。	
<b>今後の計画</b>	
教育プログラム評価委員会に学生を参加させる是非の検討を行っていくが、現状難しいと考える。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

**今後改善が見込まれる項目**

7. 教育プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
他の医療職、患者、公共ならびに地域医療の代表者など、広い範囲の教育の関係者から教育プログラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。	
現在の状況	
学外の臨床実習協力病院の多くが卒業生の研修先となることから、広域連携臨床実習運営会議を通じて研修環境に関する情報を得ることにより臨床実習に係る教育プログラムに対するフィードバックを得られる。また、蔵王協議会、山形県知事と山形大学医学部教授との懇談会、山形県知事と山形県医師会との懇談会および医学部顧問会を通じた情報収集・発信を行っており、広い範囲の教育関係者からフィードバックを受ける体制を整えている。	
今後の計画	
効果的にフィードバックが得られているか検証し、必要に応じて改善していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>8. 統轄および管理運営</b>	<b>8.1 統轄</b>
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
統轄業務に関する決定事項の透明性を高めることが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
教務委員会の審議内容は、議事概要を記録・保管している。また、医学部教授会の議事次第は、本医学部のホームページに公表しているが、具体的な審議内容までは公表していない状況である。	
<b>今後の計画</b>	
統括業務に関する決定事項の透明性を高められるように、第三者からも検証・確認できるシステムの導入等を検討していく。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.2 教学のリーダーシップ
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
医学部の使命と学修成果に照合して、定期的に教学におけるリーダーシップの評価を行うことが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
<p>医学部長、教育関連組織の委員は、任期制に基づき一定の評価がなされている。</p> <p>また、「学生と学長・理事及び各キャンパス長との懇談会」が毎年開催され、学生側の率直な意見要望を聴取することができる。学生側は教育プログラムやカリキュラムに関する課題などを学長等に直接伝えられる場であり、医学部長、教務委員会委員長は教学におけるリーダーシップが評価されている場となっている。</p>	
<b>今後の計画</b>	
科目ごとの学生による評価方法、科目責任者へのフィードバック体制の構築を検討する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>8. 統轄および管理運営</b>	<b>8.4 事務と運営</b>
<b>基本的水準 判定：適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>教学に関わる事務職員をより充実し、教育プログラムの管理、運営、活動を支援すべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>教学に関わる事務職員の配置については、飯田キャンパス事務部に学務課が設置されている。学生関連委員会、教育課程編成・実施方針、学籍に関すること、入学者選抜に関すること、経済支援、奨学金等の事務を担っており、教育プログラムの管理・運営・活動を支援している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>事務職員は人事異動が伴うため、支援業務を充実させるためには、配属後の専門的な業務内容を理解して対応できる人材養成等の方策を検討する必要がある。</p> <p>また、事務職員の増員について、今後も大学本部に継続して要望していく。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	

## 今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.5 保健医療部門との交流
<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための示唆</b>	
健康増進と疾病予防を行う保健医療関連部門と、学生との協働をより積極的に実施することが望まれる。	
<b>現在の状況</b>	
<p>山形大学 Well-Being 研究所は、長年本学が実施してきた「山形コホート研究」の成果を基に、自治体、企業、医療機関、教育研究機関と連携して、個人と地域の個別化健康づくりを支援し社会実装することを目的に、令和5年4月から全学組織として飯田キャンパスに設置し活動を行っている。</p> <p>学生はコホート研究のこれまでのデータを使用し、データ解析等を行い研究に活用している。</p>	
<b>今後の計画</b>	
地域社会、保健医療関連部門との協働の在り方を継続的に検討していく。また、コロナ禍で開催を中止していたが、令和6年度から、県知事含めた県の保健医療行政部門、県医師会との意見交換を再開する。	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
資料13 山形大学Well-Being研究所ホームページ（抜粋）	

## 今後改善が見込まれる項目

<b>9. 継続的改良</b>	
<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>	
<b>改善のための助言</b>	
<p>1 巡目の評価に指摘された「改善のための助言/示唆」について十分な改善が認められない点も多くあり、教学における課題を学生および教職員が共有して、可及的速やかに修正すべきである。</p> <p>教育（プログラム）の教育課程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価ならびに学修環境を定期的に見直し、改善する方法を策定し、明らかになった課題を修正すべきである。</p>	
<b>現在の状況</b>	
<p>現状のシステム・水準を維持しつつ、現状で整備された継続的改良のための種々の取組みの問題点や課題を抽出して改善に向けて検討する。</p>	
<b>今後の計画</b>	
<p>プログラム評価委員会をさらに実質化し、課題を抽出した結果を助言として関係する委員会に報告して対応を依頼するとともに、進捗を管理して年次報告を繰り返していく。</p>	
<b>現在の状況を示す根拠資料</b>	
無し。	